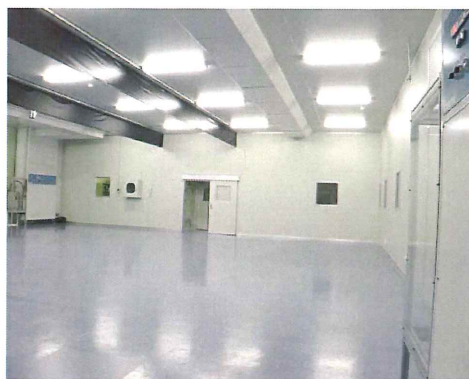


エコアクション21環境経営レポート

(2021年4月～2022年3月活動実績書)



- 1 組織の概要
- 2 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日
- 3 環境経営方針
- 4 環境目標（2019年から2021年）
- 5 環境目標に対する実績
- 6 環境活動計画の取組結果と評価、次年度の取組内容
- 7 環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無
- 8 代表者による全体評価と見直し・指示

作成：2022年5月2日
改定：2022年5月23日

トヨシマ電機株式会社

<1>組織の概要

(1) 名称及び代表者名

トヨシマ電機株式会社

代表取締役社長 坂本喜則

(2) 所在地

本社 愛知県小牧市若草町86番地

ホームページアドレス <https://www.toyoshimadenki.co.jp/>

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 取締役企画室室長 山田 修一 TEL:0568-75-2246

担当者 取締役総務部部長 朝倉 正幸 TEL:0568-75-2165

(4) 事業内容

電子部品の実装設計

クリーンブース・クリーンルームの設計・施工

建設業(大工、電気工事、管工事、内装仕上)

(5) 事業の規模

売上高 5.1億円

	正社員	臨時員	派遣社員	計
従業員	23名	3名	0名	26名

敷地面積 1,600.55㎡ 延床面積 475.64㎡

(6) 事業年度 6月～5月(活動年度は4月～3月)

(7) 会社沿革

昭和21年3月 愛知紡織(株)として創業

昭和36年9月 豊島グループに参入

昭和44年6月 トヨシマ電機(株)と社名変更

平成19年12月 豊島グループ内にて組織再編を実施

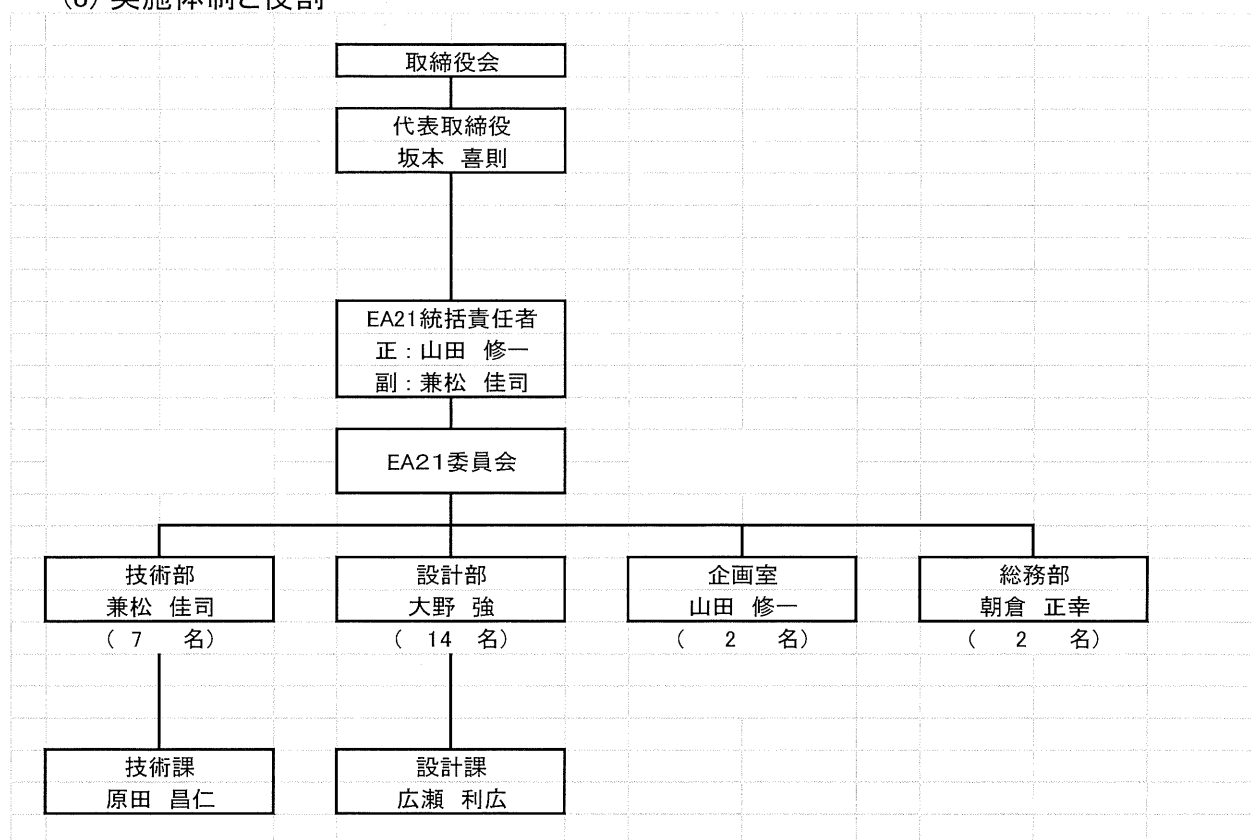
新設分割により、新規にトヨシマ電機(株)を設立

平成21年10月 新社屋完成

平成22年6月 イコアクション21認証・登録

平成29年2月 JISQ9100認証・登録

(8) 実施体制と役割



部署	責任者	役 割
代表取締役	坂本 喜則	・環境方針策定及び環境目標の決定及び見直しを行う。 ・環境経営システムの構築及び結果の評価を行う。 ・環境経営システムに有用な人材・設備・資金を確保し、効果的な運用と適切な維持管理を指示する。
環境管理責任者	山田 修一	・環境経営システムの遂行をする。 ・環境関連のコンプライアンスの監視を行う。
技術部	兼松 佳司	・技術部の日常業務に於ける産業廃棄物の処理方法の検証及び、環境面での顧客への提案に関する活動を推進する。 ・建設業者向けガイドラインへの適用
設計部	大野 強	・プリンター、コピー機のトナー容器をリサイクル活用へ ・省電力の推進
総務部	朝倉 正幸	・部内の廃棄物の管理はもとより、社内全体の設備・システムを管理し、環境保全に関する活動を推進する。
EA21委員会	朝倉 正幸	・社長、環境管理責任者(正・副)、事務局、各部課長以上で構成し、随時の会合、活動の進捗及び計画・結果の協議を行う。

＜2＞対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

(1) 認証・登録範囲

登録組織名	トヨシマ電機株式会社
活動	電子部品の実装設計 クリーンブース、クリーンルームの設計・施工

1. 技術部事業紹介

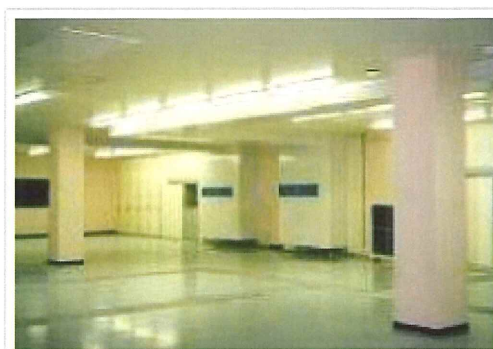
クリーンブース



・アルミフレーム式クリーンブースの特長

- ①アルミフレームの結合は ・Tロック ・ボルト ・エンドキャップ を使ってフレーム内部で結合させるため、簡単かつ外観に優れています。
- ②さらにコーナー部にコーナーステー(2ピース)を使い、強固な組立剛性を確保しています。
- ③メーカー直送により、短納期(約2週間)の対応が可能です。
- ④FFUは強弱切替により、省エネ運転も可能です。照明はLED仕様です。

クリーンルーム

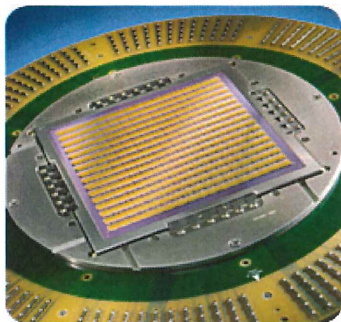


・ライン式クリーンルームの特長

- ①少ない換気回数で清浄度を達成出来る
- ②従来方式と較べて清浄度・温湿度のバラツキが少ない
- ③天井下にサブライダクトを設置する為、天井の低い建物にもクリーンルームが設置可能
- ④クリーンルーム設置後のグレードアップ及び移設も対応可能
- ⑤ユニット式の為、現地工事期間を大幅に短縮出来る
- ⑥室内ユニットのため、メンテナンスが容易
- ⑦空調機をインバーター仕様にする事により、省エネ運転も可能。照明はLED仕様です。

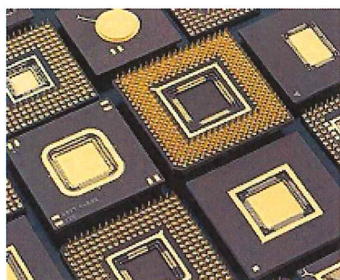
2. 設計部事業紹介

高品質・短納期を目指し、顧客の用途に合わせたCAD設計を行います。



PH150XP

半導体シリコンウエハーの電気検査に使用される
アルミナセラミックの多層基板のCAD設計
(メモリー、ロジック、CMOSセンサー等)



MPU, GPUなどの高密度多ピンの
セラミックパッケージのCAD設計

(2)レポートの対象期間及び発行日

対象期間	2021年4月1日から2022年3月31日まで
発行日	2022年5月2日

基本理念

トヨシマ電機株式会社は、社会の一員として自然環境の大切さを認識し、此処に行動指針を策定し環境保全に全社で取り組みます。

環境行動指針

当社は電子部品設計及びクリーン環境(クリーンブース・クリーンルーム)関連機器の製造・販売の事業活動において、循環型社会を目指し自然環境に配慮し、その目標達成の為、全社一丸となって取り組みます。

- 1 事業活動において、CO2の排出削減(省エネルギー)に取り組みます。
- 2 資源を大切にして、リサイクルとゴミの削減及び水資源投入量の低減に努力します。
- 3 化学物質の使用量の削減・代替努め、環境汚染の防止に努力します。
- 4 環境関連法令を遵守します。
- 5 全社員に環境問題を啓蒙し、環境方針の実行に継続的に取り組みます。
- 6 クリーン設備や環境関連商材、サービスに関する環境配慮に注力し、当該商材の提供により、社外での環境貢献に努めます。

制定日 2010年4月1日
改定日 2021年5月26日

トヨシマ電機株式会社
代表取締役 坂本喜則

<4>環境目標

環境負荷項目と削減目標

事業活動の変化及び事務所の移転などもあり、2010年の活動開始時に設定していた目標値は現状及び今後の実態を反映するにはやや無理な状況となった。そこで2019年度以降は、目標値をより実態を反映させたものとすべく、「直近過去3年間の実績平均値に対し年率1%削減」を継続、に変更した。また「2019年から2021年度の中期目標は3年間で3%の削減」とした。今回の2022年度以降の中期目標は2019年～2021年度の実績値の結果を見て設定する予定。

◇2019年度から2021年度までの目標値

環境方針 負荷項目		基準	第13期	第14期	第15期
		2016年～2018年度 の平均	2019年度	2020年度	2021年度
CO2 排出量	電力使用量	52,860	-1%	-2%	-3%
	kWh		52,333	51,803	51,274
	kg-CO2		25,120	24,863	24,609
	ガソリン+軽油使用量	4,530	-1%	-2%	-3%
	ℓ		4,485	4,439	4,394
	kg-CO2		10,399	10,290	10,185
廃棄物 排出量	廃プラスチック	36	-1%	-2%	-3%
	m3		35.4	35.3	34.9
OA用紙購入量kg		755	-1%	-2%	-3%
			747	740	732
総排水量m3		159	-1%	-2%	-3%
			157	156	154
社会貢献項目		1件以上	1件以上	1件以上	1件以上
太陽光発電量	kWh	24,000～25,000	同左(実績値の把握と記録)		
	CO2	11,500～12,000	同左(実績値の把握と記録)		

廃プラスチックの重量換算は0.35t/m3

一般廃棄物は段ボール(リサイクル)とその他紙類。少量の為実績値把握は行いが削減目標は設定しない。

電力のCO2排出係数は中部電力2016年度調整後排出係数0.480kg-CO2/kWh

環境経営目標	単位	2021年度目標
工事件数	件	103%

(前年比)

◇環境効率指標・目標(ポイント=CO2排出総量/売上高百万円)

負荷項目	単位	2021年度目標
電力使用量	CO2排出総量: kg-CO2	24,609
	ポイント: kg-CO2/百万円	47.32
ガソリン+軽油使用量	CO2排出総量: kg-CO2	10,185
	ポイント: kg-CO2/百万円	37.31

売上高は2021年度【予想】
電力は全社(520百万円)、
ガソリン+軽油は技術部(273百万円)
で試算

<5>環境目標に対する実績

環境方針 負荷項目		基準	第15期		評価 増減量
		2016年～2018年度 の平均	2021年度 目標	2021年度 実績	
CO2 排出量	電力使用量		-3%	-18%	○
	kWh	52,860	51,274	43,318	-9,542
	kg-CO2	25,370	24,609	20,793	-4,577
	ポイントkg-CO2/百万円	49.75	47.32	40.56	○
	ガソリン+軽油使用量		-3%	31%	×
	ℓ	4,530	4,394	5,950	1,420
	kg-CO2	10,500	10,185	13,820	3,320
	ポイントkg-CO2/百万円	43.39	37.31	48.89	×
CO2総排出量 kg-CO2		35,870	34,794	34,613	-1,257
廃棄物 排出量	廃プラスチック		-3%	36%	×
	m3	36	34.9	49.0	13.0
	kg	12,600	12,215	17,160	4,560
	ポイントkg/百万円	24.71	23.49	33.47	×
OA用紙購入量kg		755	-3%	-2.2%	△
			732	738.2	-16.9
総排水量m3		159	-3%	-20%	○
			154	126.6	-32.4
社会貢献項目		1件以上	1件以上	1	○
太陽光発電量	kWh	24,000～25,000	同左	23,837	継続記録
	CO2	11,500～12,000		11,442	

環境経営目標	単位	2021年度目標	2021年度実績	評価
工事件数	件	103%	105%	○

廃プラスチックの重量換算は0.35t/m3

一般廃棄物は段ボール(リサイクル)とその他紙類。少量の為実績値把握は行いが削減目標は設定しない。

電力のCO2排出係数は中部電力2016年度調整後排出係数0.480kg-CO2/kWh

※ ポイント算出時の売上高について【実績】

電力使用量: 全社売上高 512.7百万円、ガソリン+軽油使用量: 技術部売上高 282.7百万円

<6> 環境活動計画の取組結果と評価、次年度の取組内容

2021年度環境活動計画と取組結果と評価

環境方針	第15期・2021年度取組手段	主な担当部署	達成度の評価		コメント	次年度の取組
			4～9月	10～3月		
CO2排出量の削減 (電気使用量の削減)	1. 屋休等、不要場所の消灯	総務部 技術部 設計部	○	○	・総量目標、環境効率性指標に基づく目標ともに「未達成」 電力使用量は基準値から18%削減と目標を大きく上回る結果となりました。 昨年度は、新型コロナウイルス感染症対策の為、設計部員を会議室に半数移動し2部屋で稼働しましたが、今年度はパーテーション等の感染対策を行い1部屋での稼働に戻しました。 結果、電灯・動力とも電気使用量は昨年9%の削減となりました。	継続
	2. 給茶機のエコ運転(勤務体系、季節等)		○	○		継続
	3. 器具の監視と定期交換・清掃		○	○		継続
	4. 空調は必要な区域・時間限定		○	○		継続
	5. 空調機フィルターの定期清掃		○	○		継続
CO2排出量の削減 (ガソリン使用量の削減)	1. 急発進・急加速・急停止の禁止	技術部	○	○	・総量目標、環境効率性指標に基づく目標ともに「未達成」 ガソリンを主に使用する技術部の工事件数は昨年を上回り、また新型コロナウイルス感染症対策として遠方の工事でも、大半が車面での移動とした為、目標に対しては未達成となりました。 昨年度と比較して、使用量は91%程になっています。 自転車通勤奨励により、通勤者4名(2名増加)になりました。	継続
	2. 暖機運転・アイドリングストップ		○	○		継続
	3. 「エコドライブ」にこころがけましょうI等車内でのPR		○	○		継続
	4. エコカー等への切替検討		○	○		継続
	5. 公共交通機関の利用		○	○		継続
廃棄物排出量の削減	6. 自転車通勤の奨励	総務部 技術部 設計部	○	○	・総量目標、環境効率性指標に基づく目標ともに「未達成」 廃棄物排出量の大部分を占める廃プラスチック排出量にて削減目標を設定。 昨年同様、技術部の梱包材等の廃棄物が多かった為(工事件数は昨年105%)、未達成となった。 給茶機使用における紙コップは来客時のみ、通常はマイカップを使用している。	継続
	1. 顧客にて発生する産廃削減の検討		○	○		継続
	2. 納品時の梱包・包装の削減		○	○		継続
	3. マイカップ、マイ水道運動		○	○		継続
	4. CO2削減値の把握と展開		○	○		継続
水使用量の削減	5. 分別による削減方法の検討	総務部	○	○	・総量目標「達成」 各目の日々の取組により削減目標達成となった。	継続
	6. ゴミの減量化		○	○		継続
	1. 節水の呼びかけ		○	○		継続
	2. 清掃回数減少→汚さない工夫		○	○		継続
	1. 印刷物の必要最低限量の考慮	総務部 設計部	○	○	・総量目標「未達成」 削減目標に対してわずかに未達でした。コピーは両面・集約機能を利用しており、継続して取り組んでいる施策の効果は出ているため、引き続き削減を図っていく。	継続
OA紙購入量の削減	2. 社内配布・PDF&メールの増加		○	○		継続
	3. ミスコピー防止の為の設定リセット		○	○		継続
	4. 両面・集約機能を利用したコピー、印刷		○	○		継続
	5. 裏紙コピー、使用済封筒等の利用		○	○		継続
化学物質の監視	1. 新規購買品にPRT法該当の化学物質が含まれていない事の確認	技術部	○	○	購入実績無し	継続

環境方針	第15期・2021年度取組手段	主な担当部署	達成度の評価		コメント	次年度の取組
			4～9月	10～3月		
社会貢献・対顧客活動 など (環境関連法規の確認含む)	1. 環境関連法令の改正、新規該当法令の確認	総務部 技術部 設計部	○	×	法令の確認は4月に行う HPの継続的なメンテナンス・更新を行うことで、検索エンジンで上位表示され、引き合いも増加しており、工事件数も昨年105%と増加しました。 構外の除草は定期的に行い、小学校の通学路においても除草を行ないました。	継続
	2. 環境配慮型商品の積極的PR		○	○		継続
	3. HPの見直し、改定		○	○		継続
	4. 特定FONの回収、適正処理(顧客対応)		○	○		継続
	5. 環境負荷低減の為の情報提供		○	○		継続
	6. 構外の除草・清掃		○	○		継続

<6-1>次年度以降の環境目標

環境負荷項目と削減目標

事業規模及び活動の変化により、目標値設定の為の基準値を改めて直近過去3年間の実績平均値に設定し直した。

目標値については、「直近過去3年間の実績平均値に対し年率1%削減」を継続とし、「2022年度から2024年度の中期目標は3年間で3%の削減」とした。

環境経営項目として、技術部の工事件数を前年実績の103%を目標値とする様に設定した。

◇2022年度から2024年度までの目標値

環境方針 負荷項目		基準	第16期	第17期	第18期
		2019年～2021年度 の平均	2022年度	2023年度	2024年度
CO2 排出量	電力使用量		-1%	-2%	-3%
	kWh	46,509	46,044	45,579	45,114
	kg-CO2	19,813	19,615	19,417	19,219
	ガソリン+軽油使用量		-1%	-2%	-3%
	ℓ	6,104	6,043	5,982	5,921
	kg-CO2	14,197	14,055	13,913	13,771
廃棄物 排出量	廃プラスチック		-1%	-2%	-3%
	m3	48.2	47.7	47.2	46.7
OA用紙購入量kg			-1%	-2%	-3%
		705	698	691	683
総排水量m3			-1%	-2%	-3%
		126	125	124	123
社会貢献項目		1件以上	1件以上	1件以上	1件以上
太陽光発電量	kWh	23,500～24,500	同左(実績値の把握と記録)		
	CO2	10,000～10,500	同左(実績値の把握と記録)		

廃プラスチックの重量換算は0.35t/m3

一般廃棄物は段ボール(リサイクル)とその他紙類。少量の為実績値把握は行うが削減目標は設定しない。

電力のCO2排出係数は中部電力2019年度調整後排出係数0.426kg-CO2/kWh

◇環境効率指標・目標(ポイント=CO2排出総量/売上高百万円)

負荷項目	単位	2022年度目標	2023年度目標	2024年度目標
電力使用量	CO2排出総量:kg-CO2	19,615	19,417	19,219
	ポイント:kg-CO2/百万円	35.03	34.67	34.32
ガソリン+軽油使用量	CO2排出総量:kg-CO2	14,055	13,913	13,771
	ポイント:kg-CO2/百万円	43.25	42.81	42.37

売上高は2022年度【予想】 電力は全社(560百万円)、ガソリン+軽油は技術部(325百万円)で試算

環境経営項目	単位	目標値
工事件数	件	前年実績103%

<8> 代表者による全体評価と見直し・指示

1)「評価」

ガソリン使用量、廃プラスチック排出量は、主に技術部の工事件数が前年を上回ったこと、遠方の工事でも大半が車両による移動になったこともあり、目標を達成することができなかった。工事件数規模、車両による移動は、今後も続くことから対策の見直しが必要。

一方、電力使用量においては、設計部を元通り1部屋に集約したことに加え、従業員の意識の向上もあり大きく削減することができた。水使用量についても、これまでの活動継続が結果となって表れた。また、太陽光発電の合計で23,837Kwの発電があり、年間で11,442KgのCO2排出を低減できた(売電)。

2)「見直し・指示」

環境経営目標に関して、前3か年(2016年～2018年)と比べ、技術部におけるクリーンルーム工事件数、その他大型案件も増加していることから、3年前の基準値と実態に乖離が生じているため、直近3か年(2019年～2021年)の実績に則り、再度目標の設定を行うことが必要。特に、ガソリン使用量及び廃プラスチック排出量は、以前と比べ増加傾向にあるため、「エコドライブ」の取組みを推進することや「廃棄物の圧縮・分別」を習慣化する等の対策を含め、削減につなげていく。

また、電力使用量や水使用量といった項目は、基準値から大きく削減できたこともあり、次の3か年においては、より積極的な活動が求められるが、これについても地道な取り組みを続けることが必要。

「経営環境方針」・「実施体制」については、引き続き方針の徹底及び目標達成に向けた活動を促進していくため次年度も継続する。

現状の取組・課題を全社で共有し、環境経営をさらに推進させるため、全社一丸となって取り組んでいく。

2022年5月2日

トヨシマ電機株式会社
代表取締役 坂本喜則